

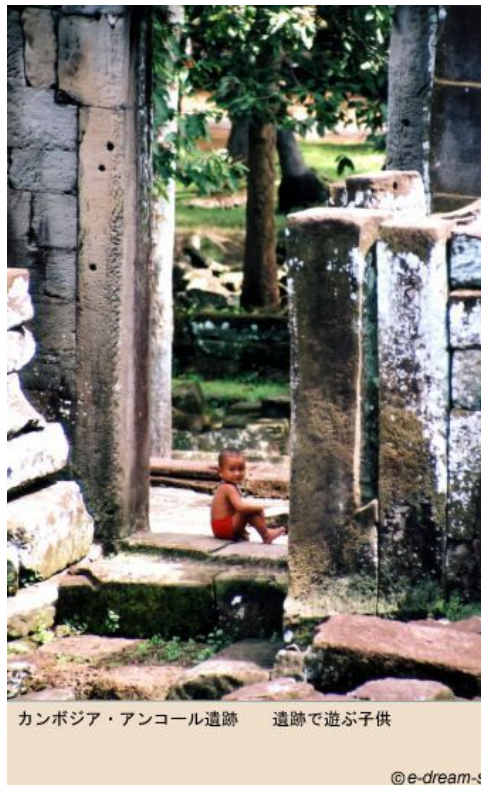
# e-dream-s 通信

No. 83 発行：2007年12月9日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

今月号は進行中の事業「教育支援事業：カンボジア調査事業」についての記事が掲載されています。Cam TESOL 発表が決定したときのドキドキ感を一緒にお楽しみください。

## 目次

- |   |       |       |
|---|-------|-------|
| 1. カンボジアへの道 つなぐ夢                              | 中川 房代 | p. 2  |
| 2. オーストラリアで日本語を聞く                             | 辻 荘一  | p. 4  |
| 3. 夢の海外旅行                                     | 井川 好二 | p. 7  |
| 4. Water Festival のカンボジアから<br>Cam TESOL 発表決定！ | 塚本 美紀 | p. 13 |
| 5. 〈サンフランシスコ便り〉<br>はじめての ESL クラス見学            | 山田 昌子 | p. 14 |



カンボジア・アンコール遺跡 遺跡で遊ぶ子供

©e-dream-s

カンボジア・アンコール遺跡 遺跡で遊ぶ子ども

# カンボジアへの道 つなぐ夢

中 川 房 代

日曜日の夜に放映されている「行列のできる法律相談所」（日本テレビ系）という番組がある。日常生活で起こる様々なトラブルに弁護士4名が法的な判断を下す、という法律バラエティ番組だ。司会の島田紳助のツッコミやタレントのトーク、弁護士による見解の相違をおもしろおかしく構成しており、視聴率も高い。

私は、好きで毎回見ているという訳ではないが、ちょっと気になることがあって、最近は何度か続けて見ている。それはこの「行列・・・」の番組で「カンボジア学校建設プロジェクト<sup>1</sup>」なるものを立ち上げようという企画が持ち上がっているからだ。きっかけは「世界に学校を作りたいんや！」という島田紳助の冗談かららしいのだが、日本ユニセフ協会大使でもあるアグネス・チャンとの話の中で、そのロケーションがカンボジアに決まり、さっそくスタッフがカンボジアに下見に行き、先週（12月2日）はその様子が放映されていた。

番組で紹介されていた村は、首都プノンペンから車で7時間のところにある人口800人のトロピアン村。村民のほとんどが農業で生計をたてているが、生活は厳しく村民の一カ月の平均月収は約4,000円（カンボジア平均月収の約半分）なのだそうだ。村には村民有志が建てた学校はあるが、子ども300人に教室は1つ、先生は3名だけ。午前・午後の2部制にしているが、収容はしきれないため小学校3年生で自動的に卒業させられる、という。スタッフは、そこで「学校に行きたい」という少女に出会って・・・というのが番組の取材VTRのストーリーだ。さあ、どういう方法で資金を集め、学校を建設するのか。島田紳助は提案する。

「お金を出せばいいという話ではない。みんなで協力してやらなきゃ意味がない」  
多くの有名人に絵を描いてもらってオークションにかける。そのお金でカンボジアに学校を建てようというのだ。題して「100枚の絵でつなぐ、学校建設プロジェクト」  
□壮大なプロジェクトが動き始める。（番組HPより抜粋）

私がおもしろいと思ったのは、資金調達のアイデアだ。数百万円あればカンボジアで学校を1校建設できるという。高所得のタレントなら一人でも十分出せる金額であろうし、何人かで一口50万円とか100万円の募金をしてもらうのも難しい話ではないだろう。だが、この提案は、島田紳助やゲストや番組関係者が趣旨を理解してもらおうべく有名人に話をする、趣旨を理解した100名の有名人が絵を描く、視聴者は絵を買うことで学校建設の資金

---

<sup>1</sup> 詳しくは、 <http://www.ntv.co.jp/horitsu/> 12月2日放送分の Q3 「カンボジア学校建設プロジェクト」

を提供する、そして、そのオークションの様子を放映することで広く学校建設の広報ができる、という形になっている。それぞれの段階で、賛同者を増やすしくみがあることだ。

勿論、彼らが有名人だからできること、テレビというメディアを使うからこそできることである。また、単に番組宣伝や視聴率アップ、人気取りのための偽善という見方もあるだろう。まあ、ともかく、今度のこのプロジェクトの動きに期待して見ていきたいと思う。

さて、前置きが長くなったが、私たちもいよいよ「教育支援事業：カンボジア調査事業」に着手する。2月のカンボジア訪問／CamTESOLカンファレンスに参加する7名<sup>2</sup>が確定した。カンファレンスでのプレゼンテーションの準備も始めつつある。

有名人ではなく、メディアも限られている私たちができる教育支援は何なのか、英語教育に携わっている会員の多い e-dream-s ができることは何か、これまで ECAP 等で蓄積してきた教員研修・交流プログラムの財産を繋げていくことができるのか、など問題意識や課題は見えてきている。また、カンボジアについても事前学習を深めていきたい。9日には大阪にカンボジア領事館からラウァンさんに来て頂き、カンボジア学習の第1弾を行うことになっている。弾丸ツアーで短い滞在期間にはなるが、展望の見える訪問にしていきたい。

---

<sup>2</sup> (敬称略) 井川好二、塚本美紀、道面和枝、Brian Nuspliger、中川房代、仙崎裕右、田中恭子

## オーストラリアで日本語を聞く

辻 荘一

勤務校では生徒全員が2年時に6泊7日のオーストラリア研修旅行に行く。費用も手間も相当かかるが、2泊のホームステイや学校交流等盛りだくさんのプログラムは、それだけの価値のある研修だということで続けている。生徒や保護者の評判もよく、今年ですでに3回目である。

私は1年生の担任なのだが来年は自分の担任する学年を引率しなければならない関係で下見をかねて付き添い教員として今年の研修旅行に参加した。

関西空港を出て約9時間 Jet Star 社のエアバスの狭い座席を我慢すれば夏のブリスベンである。ここで生徒たちはすぐにホームステイに出発。付き添い教員が宿泊するのは Radisson Resort Gold Coast. Palm Meadows という有名ゴルフコースの中にあるコテージタイプのホテル。暫くの間リラックス出来る。ホテルのプールサイドでのんびり読書でもしたいところだが、ここは来年度のオプションツアー決定のために下見だ。

チェックイン後同僚と検討の結果、翌日は世界遺産の Springbrook 国立公園ハイキングと土ボタル<sup>3</sup>(glow worm)のナイトツアーに参加を決定。翌朝ホテル前に小型バスが迎えにきて Springbrook National Park に出発。ガイドは現地に15年以上住んでいるという日本人男性である。



さて Springbrook National Park<sup>4</sup>は、標高

<sup>3</sup> 土ボタルとは・・・英語名 Glow Worm(グローワーム)、日本語では親しみをこめて土ボタルと呼んでいますが、本当はホタルではなくキノコバエ科に属するブヨの一種で、特に幼虫の時におしりの先端が強く光る発光虫の事です。

卵から成虫になり一生を終えるまでわずか11ヶ月の命しかなく、幼虫からさなぎの間に光を放つことによって餌となる虫をおびき寄せます。湿気のある場所に生息し、懐中電灯の明かりを直接向けてしまうと土ボタルは光らなくなってしまうので要注意。)

<http://www.adore.jp/0601/182310.php>

<sup>4</sup> Springbrook lies on the Scenic Rim, a chain of mountains stretching across the Queensland-New South Wales border.

Walking tracks ranging from easy to challenging take you to lookouts, waterfalls and ancient forests.

Springbrook National Park's walking tracks have been classified so you are better able to select a walk that matches your bushwalking experience and fitness. This classification system is based on the Australian Standards. Take time to read these classification details before walking out on the park.

Subtropical rainforest, ancient Antarctic beech trees, hoop pines, eucalypt forest and montane heath

差の大きい森林地帯で2時間程のハイキングで冷帯雨林、温帯雨林、熱帯雨林を体験できる素晴らしい自然公園である。同行した生物の教師は見たことのない植物や動物にいちいち立ち止まっては感嘆の声を上げていた。その種のことに全くといっていい程興味のない私にとってさえなかなか興味深く楽しいコースである。ただし、1点を除いては。それはガイドの日本語である。

同行したガイドは親切で経験も知識も豊富な中年男性だったが、いかんせん滑舌が悪い。その上最後まで聞かないと何がテーマだったか分からない話し方で、いちいち単語が聞き取りにくいことに加えて、何を言いたいのかいちいち補わなければならない聞いていて疲れてしまう。さらに、ハイキング中立ち止まって説明を始めるときは必ず「・・・って知ってますか」で始める。知っている人にとって失礼だし、知らない人にとって最初から説明してくれればいいことで、感じが悪いだけで全く意味のない表現である。さらにこのガイド、時間が経つに連れて丁寧な表現と友達言葉が混じるようになり、ツアーの間中話している内容よりもその日本語の質の方が気になってイライラし通しであった。

さて、昼食後ホテルに帰ってシャワーを浴びて一服して土ボタルを見るナイトツアーに出発。今度のガイドは20代と思われるやはり日本人の女性ガイドである。この女性、滑舌もよく話の論理展開も分かりやすく、安心したのもつかの間、舌足らずの話し方と独特のイントネーションが気になりだす。「へです」というとき「です」でイントネーションがあがるのである。皆さんタレントの「柳原可奈子<sup>5</sup>」ってご存じですか、ちょうど彼女の「ショップ店員」を演じる時の語り口をゆっくりにした感じ。要するに小学生を相手にした話し方に聞こえるわけで、これは相当イライラした。



柳原可奈子

次の日の朝、ホームステイから帰った生徒たちと一緒に Miami State High School で学校交流、翌朝4時起きでシドニーへ。生徒たちがグループで市内研修をしているすきに、現地ガイドでシドニー在住20余年のTさんの案内で来年宿泊予定の宿舎の下見に出発。このTさんの日本語は、前記2人と違って劣化や未熟さを全く感じさせないとても感じのいい日本語だった。

大阪風に表現すれば、ガイドは「喋りのプロ」であるべき仕事であるはずなのにハイキングに同行したガイドの日本語がTさんのようにならなかった原因のひとつには、本人の無自覚もあるけれども、外国という環境も大きな役割を果たしたに違いない。若い柳原可奈

---

habitats shelter an incredible variety of wildlife. More than 100 bird species live in the park and forest reserve. The elusive Albert's lyrebird, more often heard than seen, is part of an ancient, unique bird group that probably evolved when flowering plants began to dominate the landscape. In the winter months its vibrant composite call can be heard from the depths of the valleys. Springbrook provides an important refuge for this species of "true songbird".

<sup>5</sup> [http://www.youtube.com/watch?v=FFv\\_wrH-h1s](http://www.youtube.com/watch?v=FFv_wrH-h1s)

子似のガイドはまだしっかりとした職業日本語を獲得する前の段階で、Tさんのようにもなるのか、それともハイキングのガイドのようになるのか、オーストラリアに住み続けるのかどうかも含めてまだまだ未知である。

Tさんに連れて行ってもらった店で、美味しいけれどなんだかちょっと違うラーメンを食べながらそんなことを考えた。

# 夢の海外旅行

井川 好二



「センセは、海外とかいろんなところ行ったはるから、まだ行ってないところで、これから行きたいとことか、ありまへんやろ？」

「なんで、そんな、決めつけてもの云うの？」

「けど、いろいろ行きはった云うお話し、ようけ聞かせてもろてますし・・・」

「まだまだ、行きたいとこ、いっぱいある」

行きつけの割烹の女将との会話である。「焼酎に、しはりますか？」と、いつものように黒麴を水割りにしたのを、ざらっとした肌ざわりで大きめの信楽焼きに入れて飲んでいる。研ぎすましたように澄んだ焼酎が、ぬくもりのある土色の器で、光っている。めずらしく女将も少し飲む。今夜はなぜか、海外旅行の話になった。

海外には住んだこともあるし、仕事や遊びや勉強で、何度も出かけたこともある。その中で、一番回数が多く、滞在した期間も長いのは、90年代に2年間住んでいたアメリカ合衆国であろう。東部の街、フィラデルフィアの郊外に家族で住み、市内の大学へ通った。

他にも、これまでにいろいろな国に行った。生まれて初めて出かけた外国は、イタリア。

---

<sup>6</sup> 2007年11月5日「2007シルクロード行：西域の残照」読売新聞 夕刊

インパクトの強い出会いで、今でもイタリア好きである。その他ヨーロッパの国では、イギリス、フランス、スイス、ドイツ、デンマーク、マルタ。

アメリカ大陸では、カナダ、メキシコ。アジアでは、中国、韓国、モンゴル、ロシア、台湾、タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシア、ベトナム、ラオス、ネパール、インド。数えて見れば、23カ国。

アメリカ以外でも、イギリスのように結構長期間滞在した国もあるし、韓国や中国のように何回も繰り返し訪問した国もある。韓国へは、1986年に初めてお邪魔して以来、20回近く出かけている。あるいは、ラオスのように、タイ北部の街チェンライから陸路、橋を渡って国境を越え、ほんの数10分だけ滞在した国もある。合計23カ国も、とも云えるし、たった23カ国、とも思える。自分としては、もっともっと、いろんなところに行ってみたい。

「南極とか、どうですか？ペンギンはん、カワイおすし」

「違う、違う。南極なんか、何の興味もない。人間おらんとこは行きとない」

「人どですか？」

「そや、やっぱり、いろいろな人間の、生きてる姿が見てみたい」

「ほな、月旅行とか？」

「ゼンゼン！かぐや姫はん、いたはるんやったら、別やけど」

どこそこの国へ行きたいと云うより、ある都市や地域に行ってみたいと云う方が正確。車で回ったり、自分の足で歩いてみたり。美味しいものも食べたいし、珍しいものも見たいが、やっぱり、面白い人間に会ってみたい。

スペインに行きたいと云うより、イベリア半島南部にあってイスラムの影響が残るアンダルシア地方<sup>7</sup>や、北部のスペイン・フランス両国にまたがる地域にひろがるバスク地方<sup>8</sup>などに、大いに興味をそそられるのである。どのような人間たちが、どのように暮らしているのか。そのうち、スペインには、何度も通うことになるのだろう。

サマルカンド<sup>9</sup>は、中学生の頃から、行きたいと思っている都市。しかし、そのシルクロー

---

<sup>7</sup> アンダルシア【Andalucia】スペイン南部、イベリア半島最南端の地方。中世に約8百年間ムーア人の支配を受け、イスラム文化の影響が強く残る。セビリアを中心に、コルドバ・グラナダなどの都市がある。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>8</sup> バスク【Basque フランス】ピレネー山脈西部、フランス・スペイン国境にまたがる地方。1960年頃から独立運動が活発化。スペイン語名バスコ(Vasco)。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>9</sup> サマルカンド (Samarkand) ウズベキスタン南東部、ゼラフシャン川流域のオアシス都市。人口37万。約2,500年の歴史をもつ古都。ソグディアナの中心都市、シルクロードの要地



ドの隊商の街には、未だに行く機会がない。

「サマルカンドって、どこですか？」

「シルクロード西域、ウズベキスタンの都市」

「へえ」

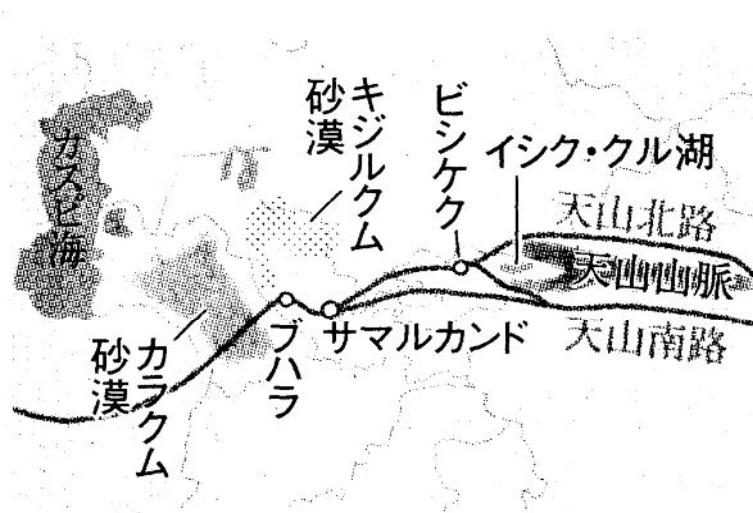
「『青の都』で、云われるオアシスの街や」

「『青の都』ですか」

「騎馬民族の古都」

「聞いてるだけで、行きとうなります」

いつかとは、思っているが、その機会はいつ訪れるのか？



シルクロード・サマルカンド付近<sup>10</sup>

同じ砂漠の都市でも、最近、興味が増しているのが、ドバイ<sup>11</sup>。案外、サマルカンドより先に訪れることになるかも知れない。

---

の都市国家として興亡を繰り返し、1220年チンギスハンによって徹底的に破壊された。1370年以降ティムール朝の首都建設により、美しい建造物群をもつ都として繁栄。同朝滅亡後は衰退したが、1868年以後ロシア・ソ連の支配下で復興。ティムールの墓グル・エミル廟(びょう)が有名。【新世紀ビジュアル】

<sup>10</sup> 2007年11月5日「2007シルクロード行：西域の残照」読売新聞 夕刊

<sup>11</sup> ドバイ (Dubai) アラブ首長国連邦を構成する7首長国の1つ。人口42万。アラビア半島北東部、ペルシャ湾(アラビア湾)岸に位置する。マクトゥーム家が支配。首都ドバイは古くから交易都市として栄え、19世紀には中継ぎ貿易で繁栄。1966年油田発見後は経済的・社会的に躍進。首都南西方のジュベリハリ港は自由貿易地区で、多数の多国籍企業が進出。

【新世紀ビジュアル】

ドバイは、アラブ首長国連邦<sup>12</sup>のひとつ。アラブ首長国連邦の、英語の略語は、UAE である。UAE は今年、建国 36 周年。オイルマネー<sup>13</sup>で潤っているこの国では、さまざまなプロジェクトが進行中で、観光客の誘致にも熱心である。ドバイには日本からの直行便が、11 時間でこの砂漠のリゾートへ運んでくれる。

ドバイは、世界に例のないリゾートになりつつある。最高気温 48 度、海水温度も 30 度を越えるドバイは、橋爪(2006)<sup>14</sup>によると、

確かに例のない観光地である。砂漠を四駆で疾走するサファリ、砂のゴルフ場、駱駝のレース、競馬場、金製品の店が集まるゴールドスークなど、ここにしかない楽しみがある。また関税がないため一流ブランド製品が安い。なかには屋内スキー場を併設する巨大ショッピングモールもある。



15

「おもしろおすな」

<sup>12</sup> United Arab Emirates [ju ˈ naɪ dɪd ˈ ɛ rəb ə ˈ mɪ ˈ reɪ ts|ə ˈ mɪ rəts| ˈ ɛ mə ˈ reɪ ts| ˈ ɛ mərəts] (abbr.: UAE) an independent state on the southern coast of the Persian Gulf, west of the Gulf of Oman; pop. 2,523,000; capital, Abu Dhabi; official language, Arabic. The United Arab Emirates was formed in 1971 by the federation of the independent sheikhdoms formerly called the Trucial States: Abu Dhabi, Ajman, Dubai, Fujairah, Ras al Khaimah (joined early 1972), Sharjah, and Umm al Qaiwain. (OAD)

<sup>13</sup> オイル・ダラー oil dollar 第 1 次石油危機後生じた産油国の巨額の余剰資金。ドルが大部分のためこのようにいう。ペトロ・ダラー, シェーク・ダラー (シェークまたはシークは、イスラム圏の首長, 長老のこと), あるいはドル以外の外貨もあるためオイル・マネーともいう。ユーロ市場等に放出され通貨制度攪乱要因となったが, 世界的長期不況による石油消費低迷や省エネなどから 1983 年春に価格値下げを招き, オイル・マネーは急速に減少。当初累積債務に苦しむ産油国が発生, 後の累積債務国問題につながる。(参)→オイル・マネー・リサイクリング

[株式会社有斐閣 有斐閣経済辞典第 4 版]

<sup>14</sup> 2006 年 8 月 27 日「世界都市ドバイ: UAE 学ぶべき集客都市の経営」読売新聞 朝刊

<sup>15</sup> 2007 年 12 月 7 日「経済発展を続ける UAE: 日本との交流さらに深く」読売新聞 朝刊(広告ページ)

「そやろ」

「お金で砂漠がリゾートどすか？」

「うまいこと云う」

「けど、うちは、サマルカンドの方が、行ってみとおす」

しかし、この砂漠のリゾート都市ドバイへ行ってみたい理由は、そのオイルマネーで作上げた都市の平和。古いアラブ世界がそのまま、21世紀に石油のおかげで生きながらえる姿がみたい。これは、単に観光客として現地へ行ったのでは、見えない。ドバイ人に知り合いをつくらないと、無理な話だとは思っているのだが・・・

そこで思い出したのは、森枝卓士(2007)<sup>16</sup>が、最近の新聞に書いていた記事。世界の食文化について面白い本を書く森枝が、ドバイの市場で、八百屋の売り子に日本語で「サトイモ、サトイモ」と呼びかけられ、振り向いてみるとホントにサトイモだったと云う話。日本のものとそっくり。だれがどうやって、ドバイに持ち込んだのか、日本語で「サトイモ」などと、どうやって覚えたのか？疑問は尽きないが、日本とドバイは案外近いのかもしれない。

「北朝鮮にも行ってみたい」

「こわいことないどすか？」

「韓国からの観光やった大丈夫」

「センセと一緒にいったら、行きますけど・・・」

「けど、面白いと思うで」

北朝鮮の観光のことも最近の新聞<sup>17</sup>に報じられていた。韓国から、今は北朝鮮にある高麗の古都「開城<sup>18</sup>」への日帰りツアーが始まったという。ソウルから約2時間、料金は約2万円と手頃。今度ソウルに行った時、日本人でも行けるものなら、是非行ってみたい。張りつめたような北の空気を吸ってみたいのと、高麗の古都を歩いてみたいのと。

「センセは、やっぱり、古都がお好きどすな」

「そうかな、そればかりやないけど」

「けど」

「新しいところにも、興味ある」

「ほな、どっちもいうことに、しときまひよ」

---

<sup>16</sup> 森枝卓士(2007年11月24日)「市場フード記 ドバイ アラブ首長国連邦：サトイモがつなぐ縁」 日本経済新聞 夕刊

<sup>17</sup> 2007年12月6日「韓国から北の古都ツアー 開城日帰りスタート」読売新聞 朝刊

<sup>18</sup> ケソン [開城(かいじょう)] 北朝鮮南部、板門店(パンムンジョム)の北西8kmにある古都。人口35万。918～1392年高麗(こうらい)の首都として繁栄。王宮跡の満月台や南大門などが残り、北西郊外には14世紀の恭愍(コンミン)王陵がある。【新世紀ビジュアル】

「そや」

「里芋の衣かつぎどす」

「うまそ」 (Saturday, December 8, 2007)



里芋の衣かつぎ<sup>19</sup>

---

<sup>19</sup> 水上勉(1997)「精進百選」東京：岩波書店。p.79.

Water Festival のカンボジアから  
Cam TESOL 発表決定！

塚 本 美 紀



水祭りのボートレース <http://www.47news.jp/CN/200711/CN2007112401000162.html>

発表の可否が連絡されることになっている期日の11月16日になっても、事務局からは何の連絡もない。担当者にメールを送るが、向こうのメールサーバーが受け取れない状態だとかでメールが戻ってくる。随分たって、このアドレスはもう使われていないので、こちらに改めてメールを送るようにとのメールが届く。ちなみに発表の申し込みが始まって以来、担当者のメールアドレスが変わるのはは2回目だ。いったい何が起きているのかと少しずつ不安になる。週末をはさんで、月曜日の11月19日、直接電話してみようとしていたところに、事務局からメールが届く。私たちが提出した2本ともが採用になったとのこと！しかも、応募者多数で選考に苦慮したということである。早速、他のメンバーと連絡をとりあい、喜びを分かち合う。

期日までに連絡が届かなかったことに平安な気持ちでいられなかったのは私だけではない。ブライアンは、「それにしても彼らの対応は遅いよね。」と言いながらも、「たった数日遅れたくらいで不安になってくるなんて、僕は日本に長く住みすぎているのかも。」とちょっと自嘲気味。確かに、CamTESOL事務局の担当者は、遅延については全く触れていない。彼らにとっては、数日の遅れは何の問題もないことなのかもしれない。

発表が決まったあと、発表者は直ちに発表の意思があるかどうかを表明するようにとのことだったので、早速事務局に発表の意思がある旨、メールを送る。数日待つが、またしても返信がない。3日後の夜、やっと担当者からメールが届く。何と今回は謝罪から始まっている。”Water Festival”のために長い休暇をとっていたので返信が遅れて申し訳ないとのこと。Water Festival って？

約900人の参加者があり、2日間で100以上の発表が行われる会議(2007年実績)とは思えないような「手作り感」あふれる対応に、時々いらいらしながらも、そんな自分がおかしくもある。「異文化」との接触は、違った視点で自分を見直すいい機会にもなる。We are looking forward to seeing you in February!と言う彼らに実際に会うことを、心から楽しみにしている。

## <サンフランシスコ便り>

### はじめての ESL クラス見学

理事 山田昌子

「この間、ESL<sup>20</sup>の授業に行った時、Chinese のおばあちゃんと話をしたの。とっても可愛いおばあちゃんなの。何故英語を勉強しているのかと尋ねたら、孫と話をしたいからなんですって！」

ご存知のとおりサンフランシスコには多くの他国からの移民が住んでいて、市内には彼らの ESL の向上のためにさまざまな学校がある。私が通っているサンフランシスコ州立大学の M.A. TESOL プログラム<sup>21</sup>では、ESL のクラスの teaching assistant (TA) をすることが義務づけられているクラスもある。友人の台湾からの留学生が、そのクラスの課題のため毎週 City College of San Francisco で TA をするためにビギナー用の ESL のクラスに行っているが、冒頭の言葉は、そこで出会った老婦人の英語学習の動機についての彼女の言葉だ。孫たちは、おばあちゃんの中国語を理解することはできるが、普段の会話はほとんど英語。英語ができないおばあちゃんは、孫たちと直接会話をしたいので英語を勉強する決意をしたと言う。年をとってからの語学学習は大変なのに、そのおばあちゃんは一生涯懸命勉強しているらしい。大人の ESL 学習には、それぞれ理由があるのだなあと思う。



今学期、私はたまたま TA をする機会がなかったので、知り合いの City College of San Francisco の A 先生にお願いし、授業を見学させていただくことになった。移民たちは、non-credit のクラスは無料で授業を受けられる。しかもこの大学は、市内の様々なところにキャンパスを持っている。日中と夜にクラスがあり、適切なクラスを選択し週 2、3 回通っている学生も少なくない。

彼女のクラスはダウンタウンに近い場所で行われており、私は電車とバスを乗り継いで出かけた。

ちょうど学期の終わり頃なので、インタビューテストのための練習や聞き取りテストがあり、盛り沢山の 1 時間 40 分だった。最初に A 先生は今日の学習内容を確認。次に 4 段階の状況設定（例：Your friend invites you to go to dinner on Friday, but you are going to your brother's house for dinner. What do you say?）の用紙が配られ 3 人組での会話練習で授業が始



<sup>20</sup> English as a Second Language <リーダーズ英和辞典>

<sup>21</sup> Established in 1964, San Francisco State University's M.A. program in English with a concentration in Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) is one of the oldest and largest TESOL programs in the United States. [<http://www.sfsu.edu/~matesol/index.html>]

まった。レベル8のうち3、4レベルの学生たちのクラスだそうだが、グループによっては、「そこは to my house、to が必要よ。」「On Friday は最後に言うべきよ。」と教え合いながら会話をしている。その会話練習を数分間した後、A 先生は全体で尋ね方や答え方の確認をし、同時に「アメリカの文化ではこう言うけど、文化によってはそんな言い方しないよね」と様々な国からやって来ている学生に配慮し文化についてのコメントもはさむ。この日は 12 名の学生、普段 (20 名平均) よりも少ない人数だったらしいが、私は、ヒスパニック系、アジア系と様々な背景を持つ学生が集まっていることを再認識した。

不規則動詞習得のためのディクテーション (例: What time did you wake up this morning?) では、聞くのも話すのも巧いエルサルバドル出身の学生が、授業の前に「僕は英語を書くのは苦手なんだ。それに、仕事のためきちんと週 3 回通えないから、なかなか勉強が進まない。」と言っていたが、ノートを見ると果たして *understan* (*understand*), *di* (*did*), *whit* (*write*) と書いていた。授業後、A 先生に聞くと、中南米からの学生は、オープンで間違いを気にせずどんどん会話をしようとし進歩もはやいけれど、本国では学校に通えずここに来て初めて文字を習う学生もいるらしい。恐らく彼もそうなのかもしれない。

ディクテーションを確認した後では、その質問文を使ってペアになって Q & A をする、宿題や翌日のテストの連絡をし、最後に City College of San Francisco 作成の 30 分間の聞き取りテストをする・・・といった具合にてきぱきと、でも学生からの質問や冗談も交えながらリラックスしたムードで授業は進められた。



授業の後、ニカラグア出身の女性と話をした。彼女が英語をすらすら話すので、どれ位アメリカにいるのかと尋ねたら、昨年渡米したそうだ。しかも本国では英語は学ぶ機会は無かったという。近くのホテルで働いていたが身体を壊し、今は養生しながら次の仕事のため英語の力を伸ばそうとしていると言う。

一方、A 先生の話では、本国 (中国) で医者をしていた年配の女性が、夫と共に渡米、どういふわけかウエイトレスをしながら英語を学んでいるらしい。A 先生は、詳しく話をしたことはないが、彼女は看護婦を目指しているのかもしれない、兎に角とてもやる気があり熱心な学生のひとりだと言う。



1990 年代は、教室が一杯になる程学生の数が多かったのが、サンフランシスコの物価が高いせいで、郊外の市や町で働く移民たちが増え、今はクラスの学生数が減りつつあるらしい。そのため、州や市からの経済的なサポートが減っている。一方、*non-credit* ではあるが、無料で英語が学べるので、授業料の高い語学学校

から移り、違法に学んでいる学生もいると言う。

はじめて ESL の授業を見せてもらい、様々な背景をかかえた学生たちと出会い、私は「何故英語を勉強するのか」原点に戻ったような気がしている。それはまた「何故英語を教えるのか」にも繋がると思う。日本はどのようなだろう、EFL<sup>22</sup>としての英語教育はどのようなだろう。私は常に「日本」が頭から離れない。

年期がたったおんぼろベンツの車で自宅まで送ってもらい、車の中で A 先生は、「Credit がとれる ESL のクラスは、無料ではなく、大学進学を念頭においているので内容が異なるけれど、non-credit のクラスでは、できるだけ practical な英語が使えるように意識して授業をしているのよ」とおっしゃった。そして以下の言葉も忘れず付け加えて下さった-----「またいつでも見学にいらっしゃい。私が駄目な時でも、他の先生の授業が見られると思うわよ」と。

今こうして原稿を書いていると、午前中、又は夕方から夜にかけて働き、時間をみつけて英語を学びにやって来た学生たちの笑顔と、突然見学にやっていた私に別れる時言った「明日も来るの？またね！」という言葉の思い出す。今度は見学ではなく TA がしたい！  
(December 4, 2007)

**\*\*\*\* お知らせ \*\*\*\***

「第 27 回理事会」開催のお知らせ

「e-dream-s 第 27 回理事会」（拡大理事会）を以下の要領で開催します。  
ご予約ください。

<第 27 回理事会>

1. 日 時：2008 年 1 月 4 日（金） 19：00～20：00  
（ACROSS 冬合宿の期間中に、同じ会場で行います）
2. 会 場：コープイン・京都 会議室  
〒604-8113 京都市中京区柳馬場蛸薬師上ル井筒屋町 411  
フリーダイヤル：0120-79-6600 TEL：075-256-6600 FAX：075-251-0120  
<http://hawk2.kyoto-bauc.or.jp/coop-inn/kyoto/>

編集後記：カンボジア Cam TESOL での発表が決まり、e-dream-s の新たな広がりを感じます。発表に向けて頑張っている会員だけでなく、多くの会員がいろいろな形で関わって活動を発展させていきたいと思えます。

<sup>22</sup> English as a foreign language <リーダーズ英和辞典>